

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

活動の情報発信をどのようにされますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

応援隊の皆様には不定期なのですが、応援隊の皆様へのメールとして発信をしておると、地域おこし協力隊、これは、平日、毎日いろいろ配信をしております。その辺を組み合わせ、広く伝わる部分、深く伝わる部分というふうに情報発信をしていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原 実議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。

再開を11時30分といたします。

〈午前11時22分 休憩〉

〈午前11時30分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。〔10番 東野恭行君登壇〕

○10番（東野恭行君）

みらい創造クラブの東野恭行でございます。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、糸魚川市駅北地域に必要とされる施設整備について。

- (1) (仮称) 子育て支援複合施設を駅北地域に設置することで、本市における「子育て環境や支援の満足度」をどの程度引き上げたいのか、将来の展望や考えを伺います。
- (2) 令和5年3月定例会で審議された「子育て支援利用促進検討事業」が実施され、今後子育て世代のニーズは把握されることと思うが、この検討事業で、新設で子育て支援施設を造らなければならないほどの数値に及ぶのか疑問であり、駅北のにぎわい創出を踏まえるなら、複合施設としての利用検討事業も必要であると考えがいかがか。
- (3) これから、(仮称) 駅北子育て支援複合施設を検討するに当たり、駅北地域の方々とのようなコミュニケーションを取り、設計から建設に結びつけていくのか。十分なコミュニケーションの余地はあるのか。

## 2、保育園の民営化における現実と実現性について。

- (1) 糸魚川市は、保育園の民営化を目指していくのか。財政の負担軽減策のほかに本市にとってのメリットは何か。
- (2) 保育園の民営化に対して、保護者が感じる期待と不安は何か。
- (3) 保育園の民営化を目指した場合、「公務員保育士」として保育園に勤務する職員の身分はどうなるのか。
- (4) 保育園の民営化により、待機児童問題や保育士不足の問題解決に結びつくのか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、子育て世代のニーズの高い屋内遊戯場を整備し、子育て環境の満足度を向上させるとともに、立地適正化計画で示す若者、子育て世代が快適に暮らせる中心市街地の形成を目指すものであります。

2点目につきましては、駅北まちづくり戦略において、子育てを中心とした機能としていることから、子育て世代のニーズ把握に努めておりますが、それ以外の動きのほうについても、必要に応じて検討してまいります。

3点目につきましては、設計段階から意見等をお聞きしたいと考えております。

2番目の1点目と2点目につきましては、少子化に対応した持続可能な保育所運営の方針を定めるため、今年度、保育園の保育の在り方検討を進めることとしており、民営化もその手段の一つと捉えております。

また、民営化に対する保護者の意見等をお聞きする中で、期待や不安なことなどについても把握してまいります。

3点目につきましては、民営となった場合も正職員の保育士の身分は、引き続き保障されるよう努めてまいります。

また、会計年度任用職員については、本人の希望に応じて、保育士として就労できるよう配慮いたします。

4点目につきましては、ご指摘の課題も含め、多様なニーズに応じた保育サービスが提供できるよう検討を進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

それでは、2回目の質問に入らせていただきたいと思います。

少し順番を変えて、2番目の保育園の民営化の件について、2回目の質問に入らせていただきます。

2番目の（1）保育園の民営化を目指していくのかというところの再質問でございます。

仮に民営化が実現した場合、財政負担が軽減されると考えますが、軽減された分、例えばそれを子育て支援等に充てることができるのか。負担額とすれば、どれくらいの軽減が図れると予測するのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

現在、公立の園が民営化になることによりまして、国等からの交付金等がありますので、市の負担というのは減少してまいります。

以前、大規模な園、定員140人規模等の1園で試算をしたところ、こちら概算でございますが、年間1,000万円程度が減少となる見込みであります。こういった減少した部分につきましては、市政全般で使うことがよろしいのか、また子育てに特化したものがよろしいのか、そういった部分につきましては、今後こちらの民営化のほうの検討を進める中で、全体として考えていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

1つの施設で約1,000万円ほど減少することなんですけども、また、この負担軽減で、また新たな公共サービスが見込まれるので、期待のかかる所でございます。

民営化に伴い、公立保育園の運営が大きく変わる点は何か。一朝一夕に公立保育園が民営化に順応することが果たしてできるのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

運営ということに関しては、最も大きな違いとしましては、国からの財政支援の違いでありまして、民営のほうが国から多くの支援を受けることができまして、市の財政負担が、先ほど申し上げたとおり、軽減が見込まれるところでございます。

また、中心となる子供たちにとりましては、保育の質といった点では、公立と民営では違いがありませんし、あってはならないものだというふうに考えております。

公立から民営に移行した例というのは、全国に多くあります。例えば平成30年、公立の割合が約3割だったものが、一昨年、令和3年には26%という形で、公営から民営のほうに少しずつシフトしてきてるといったものも全国的な傾向ではございますが、そのような事例を踏まえて対応することで、無理のない移行といったものは可能であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

特別支援や医療的ケアが必要となる園児が増えてきておりますが、専門職の確保が困難な状況の中、保育園の民営化は、その追い風となるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

医療的ケア児の対応等によります専門職、具体的には看護師等になりますが、こちらの確保につきましては、民営、また公立ともに大きな課題ではありますが、例えば先ほど答弁いたしました民営化により、市の財政負担が軽減される分、そうした課題解決のための財源として活用するといったことも想定されるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

お願いします。

子供の減少に合わせて、持続可能な保育所運営が望まれますが、令和5年度中に保育の在り方の方針を決定することですが、糸魚川市の出生数の減少傾向を踏まえすと、今年度中に取り急ぎ着手しなければならないことは、何か伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

少子化の中、今後の子供の数というのが減っていくということが見込まれております。そういった中で、まずは今回の在り方検討の中では、園の適正な規模と適正な配置、大規模園、小規模園のそれぞれの利点等、またデメリットも考える中で、そういった部分について早急に取り組まなきゃいけない点、また併せまして、財政面でも先ほど申し上げました今後、園を続けていくためには、やはり経営的な部分も必要になってまいります。そういった部分では、園運営の民営化といった部分で、この2点につきましては、今年度、取り急ぎ検討して、方向性を出さなければならないというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

適正配置、規模に応じてということなんですけれども、これ例えば小さい園と小さい園を併せてみたい、そういったイメージなんですか。集約するというような、そういう考え方でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

適正な配置といいますと、やはりそういった統合といいますか、ものが想定されます。

ただ、単に子供の減少だけでそういったことを早急に決めることではなく、例えば保育園であれば、その先の小学校、中学校といったような形で、市内でも近くに教育機関、保育機関がございます。そういったところの関連性であるとか、また地域の方々の意見を聴きながら、慎重に対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

保育園を運営されている園長先生、理事長の方も、それぞれ思いを持って今まで運営をされてきたと思いますので、答弁にもございましたとおり、慎重に進めていただきたいというふうに思います。

続きまして、対民営保育園に関して、あれをしてください、これをしてくださいという市役所側からの指南は難しいと考えますが、出生減や担い手不足の背景から、保護者や保育従事者に対し、民営化の認知を深める役割があると考えます。一言で民営化という前にすべきことがたくさんある

と考えますが、まずは関係各位と意見交換を繰り返し、着実に歩を進めていただきたいと思います  
が、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

ご質問は民営化ということでございますが、そういった中には、例えば今働いている保育現場の環境であるとか、保育士の業務の改善、また先日も一般質問で上がっていましたが、不適切な保育の現状といったものも全国的には上がっております。そういった部分では、民営化と併せまして、保育の業務改善、また保育の質の向上といった部分も併せて考えなければならないというふうに捉えております。

また、公立だけで考えるのではなく、民営の方が、既に園運営されてる方が市内にもいらっしゃいます。そういった方々のご意見を踏まえながら、こちらのほうにつきましては、検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしく願いいたします。

（2）番の民営化に対して、保護者が感じる期待と不安は何かという再質問をさせていただきます。

民営化に関して、保護者への認知をどのように進めていくのか、全国的に民営化の流れはありますが、糸魚川市が民営化を推進する大義名分がもし仮にあるのであれば、どのように理解を求めて、深めていくのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

全国的な民営化の流れにつきましては、先ほど申し上げましたとおり公営から民営に割合が進んでいるということでございます。今年度、保育園の在り方検討として進めることとしてはおりますが、保護者の皆様のご意見をお聴きする中で、検討のほうを進めてまいりたいと思っております。

在り方検討の方向性ということでございますが、こちらにつきましては、子供の数が減少する中で持続可能な保育所運営を中心に、決して民営化ありきということではなく、運営手法として、民営化の視点を持って検討を進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

確認なんですけども、現段階で民営化するというのは、今後の検討ということで、もう決まっている事項でないということなんですよね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

議員おっしゃるとおり、本年度、保育園の在り方検討ということで予算計上させていただきました。その中でいろんな関係の方から、また有識者の方からのお知恵を頂いて、民営化も含めて、適正配置の問題もございます。そういった、ただ国の動向もございますので、そういったのを含めて、今後の在り方をしっかり方針を出していくということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

3月の当初予算で、在り方検討に関する予算が計上されましたが、この令和5年度中に方向性、方針を決定するという考え方で、民営化になるかどうかというのは、令和5年度以降という考え方でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

民営化が決定した場合のスケジュールという部分でございますが、やはりすぐにとすることはなかなか難しいというふうに考えております。ある程度の年数、例えば園児が入れ替わりのある、少なくとも3年程度の保護者への説明期間といったものが必要であるというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

民営化というふうに叫ばれて結構な年数がたってるかと思うんですけども、選択の基準ということで、民営化が、という手法があるということなんですけども。本当もう幼児が少なくなってくるというのは待たないんですけども、この辺の判断、いつの時期にやらなきゃいけないという、やっぱ基準であると思うんですね。試算もね、前回頂いた資料の中に入っておりますし、その辺のけじめといいますか、その基準が私、令和5年度の最後のほうで方針が決まるというふうに解釈してるんですけども、なかなかその令和5年度中には決まりかねるということよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

一応、在り方検討ということで今年度予算を頂きましたので、在り方を今年度、鋭意検討していくということになります。

ただ、関係者の方いらっしゃいまして、そういった意見をお聴きする中で、やはり市としても方針を決定していくということなので、やはり今議員おっしゃる令和5年度末というところで方針が出るかどうかということもありますけれども、ただ、少子化の中で保育園、今公立もありますけれども、民営化、小規模園が多くなってきております。そういった中でもやっぱり今後の保育園の在り方というのを早急に検討していかないと、持続可能な糸魚川市になっていかないというふうに思っておりますので、そこら辺は努力をして、方針を一刻も早く出すようにしたいというふうに思っておりますが、令和5年度末、期限といいますか、そこを目指してということになりますが、なかなか厳しいものもあるなというふうには認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

民営化によって、保護者にとっては早朝保育や延長保育など、保育者の保育ニーズに対応したサービスの向上、受入れ児童数を増やせるなどメリットが考えられますが、対して、保護者が不安と捉えるであろう点とは何か、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

保護者が抱える不安ということでございますが、保護者の立場からいたしますと、例えば保育の質の低下であるとか、経営的な論点での省力化や営利主義になるのではないかとといったことが心配されることが想定されますが、そういった部分につきましては、不安が払拭されるような形、またそういった形にならないような形で進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

本年度に在り方検討に関する研修の実施を予定されておりますが、過去の研修会などの実績はあるのでしょうか。令和3年12月にオンラインによる講演会が実施されているようですが、その反響はいかがだったのでしょうか。保護者にも反響を得られそうな内容であったのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

議員おっしゃる令和3年の12月の研修会というものは、私立保育園連盟の主催で、青森にお住まいの、青森で認定こども園を運営していらっしゃる先生、理事長を招いてといたしますか、オンラインで研修をさせていただいたと。その方は、国の各委員もやっております、国の動向にも詳しいということで、国の、ちょうどその頃こども家庭庁の創設の議論がなされておまして、国の動向の、そういったこども家庭庁ができることによって、今後こう変わるんだよというようなところをご示唆いただきました。

また、少子化になる中で、やはり小規模園はこのままでいいのかというところも問題提起されておりましたし、本気でみんなで考えていかなきゃいけないというようなことを、私も出席をして、お聞きしたところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

その青森の先生に関してですが、内容についてはちょっと拝見したことないので分からないんですけども、そういった我々にも分かりやすいそういった教材といたしますか、先生がいらっしゃるんであれば、ぜひ我々も傍聴したいなというふうに思っておりますし、今後のそういった研修会の予定というのは、具体的に決まっておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

現在、研修会の開催ということで、今回在り方検討の中で予定をしております、この夏以降でございますが、内容につきましては、例えば民営保育の現状であるとか、また先ほどの適正配置に関係してまいります、集団保育の有益性といった部分をテーマといたしまして、さらなる現状把握といたしまして、主に現在の公立の保育園の保育士等を中心に、そういった部分について学びたいと思っておりますし、我々教育委員会の関係者も、同様な形で研修会のほうを受講しまして、今後の検討材料とさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

また後ほど詳細教えていただければと思います。よろしく申し上げます。

私の子供は、公立保育園を卒園させていただきました。しかしながら、先生各位には感謝はあれど、不足を感じる点はなかった分、民営保育園を卒園された保護者も同様なんだろうと思います。

しかしながら、初めて子供を保育園に入園させることは、公立・民営に限らず、何かしら不安が

伴うと感じます。まずは、どの年代に入園していただくとも、現在と変わらぬ丁寧な対応で受入れをお願いしたいと思いますが、教育長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

    靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

    お答えいたします。

    公立、私立、分け隔てなく糸魚川市にとっては大事な子供たちですので、そこら辺りの行政からの関わり方については、それこそ平等の感覚、公立的な感覚、それを第一にしながら、子供の幸せを第一にして、第一に考えて、これからも進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

    東野議員。

○10番（東野恭行君）

    それでは、（3）番の保育園の民営化を目指した場合の公務員保育士としての保育園に勤務する職員の身分について、再質問をさせていただきたいと思います。

    私が仮に、磯野次長の立場であれば、公立保育園の先生に対し、いついつから保育園が民営になるので対応をお願いします。身分は、公務員ではなくなりますというような発言はとても苦しいでしょうし、ちゅうちょするものと考えます。職員さんの年代により対応も異なってくるとは考えますが、ストレスなく円滑に理解を求めるには、どのような手だてを考えておりますか。仮に民営化をした場合のケースでお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

    磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

    仮に民営化をするといった場合ですけれども、まず保育園には、1園といっても多くの保育士、調理師、調理員が働いております。それも正職、また会計年度任用職員といった職員が働いております。

    まず、民営化というところの理解を、まずやはり関係者というところもそこに保育士、調理員も含まれるんだろうというふうに思っておりますので、そういったところを理解をしていただいて、その上で、何ていうんですかね、全国にも民営化の事例はあります。そういった中では、元あった公立、元あったといいますか、公立のほかの園に移るのか、あるいは新たに民営化となった園に、給料など待遇を担保しながら移っていただくのかといったところを、お一人お一人思いは違うので、一人一人丁寧に対応をしていくことが重要なんじゃないかなというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

    東野議員。

○10番（東野恭行君）

単純に素朴な疑問なんですけども、仮に民営化を目指した場合、公務員の立場である保育士さんは、その民営化に伴って、その公務員の資格というのはどういう、先ほど給料に関しては保証に努めるということで答弁ありましたけど、その辺の身分はどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

保育園の民営化につきましてですが、一遍に全部が全部民営化するわけでもございませんし、公立でやらなければいけない役割、公立の保育園というのも残さなければいけない。また、めだか園や子育て支援センターもございますので、公立の保育園、いわゆる正職の保育士につきましては、そのまま公立の園でお勤めいただくか、公立の持つてる施設でお勤めいただいて、そのままの身分で働いていただくというような形になると思います。

○議長（松尾徹郎君）

質問の途中ですが、暫時休憩いたします。

再開を1時といたします。

〈午後0時00分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

もう一度、2番の（3）番について再質問させていただきたいと思います。

職員の身分についてどうなるのかというところの再質問であります。先ほどの答弁を聞かせていただきますと、一気に民営化するならば、一気に進めるのではなくて場所ごとにその民営化を進めていって、その中で公営の保育園を残す中で、その職員さんが例えば残りの5年間を公務員保育士として身分を全うするという、そんなような解釈でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

すいません。私の答弁の仕方が少しちよっとまずくて、誤解を与えていたら申し訳ありません。

議員おっしゃるとおり、民営化するにしても、やはり一気にということは、今現在のところ考え

ておりません。というのは、やはり民営化ということになりますと、やっぱり経営ベースというものもありまして、やはりある程度の規模ということも、ある程度の規模の保育園でないとなんか受け手がいないというのがあります。当然、小規模といいますかね、そういったところは公でやっていく必要があるでしょうし、先ほど総務課長が答弁したように、発達支援だとか、そういった医療的ケアが必要な子供さんの受入れは、例えば公立であるとか、公立でやるべきことがまだ残っている、残っていくんだろうというふうに思っています。そうすると、やはり公立全てじゃなくて、やはり限られた園ということになってきます。民営化する園の保育士、調理員については、それぞれやはりその後の民営化された後の思いは当然それぞれ違いますので、公立のほかの園で働いてもらうのか、また新たに民営化となった園で待遇とかも担保しながら残ってもらうのか、一人一人話を聴きながら対応させていただくということになると思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

ありがとうございました。

また、民営化を前提に再質問させていただきますが、私にとって、この点が一番気になるところなんですけども、あくまで個人的な見解で、公立保育園と民間保育園は、人間関係のヒエラルキーが大きく違うものと考えられます。公立はピラミッド型のヒエラルキーが強い組織だと考えますし、序列や人間関係の上下もはっきりしていると考えます。

一方、民間企業の多くは、仕事の役割はそれぞれあるものの、人間関係や役職、仕事の立場に引きずられない割とフラットな関係性があるのではと考えます。

このような背景から、お互いの言動や仕事に対する受け止め方にずれが生じることがあると考えますが、まずはお互いの違い、民間と公営のお互いの違いを理解することが必要であると考えます。今年度の在り方検討を進める中で、このような理解を深めることはできるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

保育士にとりまして、保育に当たってきた環境であるとか、またそれまでの経験によりまして、保育観の違いといったものはあると思っております。保育観の違い等につきましては、決してマイナス面だけで見るとはなくて、プラス面で見まして、それをお互いに理解をしようといったことが大切だと思っております。

それぞれの保育観等、考え方につきましては、これまで会議であるとか研修といった場がそういった場で、お互いの意見を言う場でもありますけども、やはり日常から自分が考えてること、そういったことを何でも言い合えるような風通しのよい職場づくりというのが大切だと思っておりますし、今年度予定しております保育の在り方検討では、主に2つということで、先ほど申し上げました適正な規模と配置、また、2つ目として園運営の民営化を大きく2つとしておりますが、そういった中でも、今ほど話がありました働きやすい職場環境づくりといったものも関連してこようかと

思っておりますので、そういった部分についても触れていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、（４）番の待機児童問題や保育士不足の問題解決について再質問させていただきます。

保育士の確保については、公立保育園も民間保育園も大変な人材不足の状況であると考えますが、例えば地域おこし協力隊を保育士の募集に入れられないか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

東野議員おっしゃいますとおり、人材不足につきましては、公立、私立、民営問わずに少子化の中、非常に課題となっているところでございます。今ほどご提案のありました地域おこし協力隊による保育士確保策の外部人材を入れて検討してみてもどうかといった部分につきましては、他の自治体でやってる事例もお聞きしておりますので、そういったものも検討していきたいと思っております。

また先般、私立の保育連盟の理事会園長会議というのがございまして、そういった場でもやはりこの課題が出ました。具体的な提案という中で、保育士を目指す方が、専門学校、大学等に行く場合に、修学資金の貸付制度、また、市内等で働いた場合には、そういった修学資金の返済が免除を受けられないかといった、既に医療技術者等でそういった部分が市でもございますが、そういったものの提案というのもありますので、そういったところも検討していきたいと思っておりますし、まずは保育士になろうとする気持ちを市民の中にもつくろうということも大事だと思っております。中学生のキャリアフェスティバルでも、保育園、幼稚園のブース等も設けておりますし、またそれ以外にも市民の方にも保育士の役割といったものも知っていただく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

ぜひ検討を進めていただき、実践に近づけていただきたい、このように思います。

再質問です。公立保育園の保育士の早期離職の問題は、民営化によって解決するものなのか。早期離職の実態はどうか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会子ども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

市の関係では、公立の保育園が関係するところではありまして、早期の退職というのもここ数年であったところでございますが、退職の理由というのは様々でございます。例えば保育士の職場の環境が自分が思っているものと違ったりだとかといったものが挙げられるかと思いますが、こちらにつきましても、公立また民営とも、どちらでも考えられるものではないかなというふうに捉えております。

いずれにしても早期の離職者を少しでも止めるような方策につきましては、例えば若手保育士さんがどのような考えをお持ちなのかといった部分のご意見をお聴きするといったことも尊重してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

例えばなんです、その早期離職に至るまでの間、いろいろな心境ですとか、また職場の環境によって辞めたいという意思をもうそのご本人がされたときに、例えばせっかくそういう資格を取って、次に生かすということ踏まえるならば、例えばこんな人がいるから違う、例えば私立の保育園で雇っていただくことできないかとか、そういった個人情報などでなかなか難しいとは思いますが、やっぱりそういった人材は貴重だと思うので、そういった情報の共有というのはなかなか難しいものではないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田子ども課長。〔教育委員会子ども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会子ども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

実際に公立の園を退職されて、市内の民間のほうに行かれたといった方も中にはいらっしゃいます。そういった中でも保育士の、私ども実際に市内に何人ぐらいの保育士資格をお持ちの方、いわゆる潜在保育士等は何人いるかというの、正直、現在つかんでいない、把握できていない状況であります。

そういった中で、保育士の再就職といいますか、そういった支援につきましては、県のほうでそういった保育士の職業を少し紹介するといった制度といったものもございます。そういったものを活用する中で、今まで培ってきた技術や経験、また子供への保育といったものを生かせる場面というのもございますので、そういったところを活用する中で、市内全体の保育の確保に当たっていきたくて考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

せっかく資格を取られて、二、三年で早期退職されました。そして上越の保育所に勤めましたという事例も聞いておりますので、できればそういった貴重な人材、市内でご活躍していただきたいと思っておりますし、また、なかなか条件面とかそういった複雑な事情もあろうかと思うんですけども、できる限りの情報の共有をしていただけたらなというふうに思います。

本年度予定の在り方検討で、次年度以降の方針をしっかりと示していただき、関係各位が途中迷うことのないよう、市役所がそれぞれの役割を明確にさせていただき、慎重に進めていただきたいと考えますが、教育長いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

霧本教育長。〔教育長 霧本修一君登壇〕

○教育長（霧本修一君）

お答えいたします。

糸魚川市が抱えている保育園を巡る環境、職員、それから民営化、私立化、それぞれの課題が複雑に絡んでおります。スピード感もかなり求められている大変大事なことであり、その中で検討会を進めていますけれども、行政があまりにもリーダーシップ取り過ぎますと、何か行政があまりにもその形にはめてしまって、何か地域や保護者のことを考えないんじゃないかというふうな捉え方をされても非常に困りますので、ここら辺りは、検討するメンバー、それから検討する回数、それから中身、それから指導を受ける先生のアドバイス・助言というふうな部分を総合的に鑑みながら、やはり最終的には子供にとってどういう環境が一番いいのかということと、保護者の方、地域の方々が、不安感なく安心して預けられるような子供たちの環境、園というのはどういう姿なのかというふうな部分を軸にしながら、一步ずつ検討のほうを慎重に進めてまいりたいというふうに思っています。子ども一貫教育の大事なベースの部分にも位置づけますので、ここら辺りのところは手を抜かないで、誠心誠意努めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしく願いいたします。

それでは、1番目の質問に戻りまして、（1）番から再質問させていただきたいと思っております。

当市における子育て環境や支援の満足度をどの程度引き上げたいかという再質問でございます。

若者世代が集うまちにしていきたいというご答弁をいただきましたが、令和5年1月15日から同年2月23日まで、（仮称）駅北子育て支援複合施設についてのパブリックコメントが実施され、冒頭の市長の挨拶の中に、持続可能な地域の未来である子供たちへの先行投資として、関連施策を力強く推進していくとありますが、この施設設置に対する強い動機が一番大切かと思っておりますが、この（仮称）駅北子育て支援複合施設が設置されると、糸魚川市の子育て支援がどのように変わり、どのように進化すると仮定するのか、伺いたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回の施設の計画の中心となっております屋内遊戯施設、こちらにつきましては長年、子育て世代の方からの要望が多く寄せられてきた施設であります。近隣の市町村などでもそのような施設が造られている中、悪天候が続く冬場、また夏場の暑さの中でも、また少子化の中、自宅で1人で子育てをする保護者等の孤独感であるとか、不安といったものの負担軽減につながりまして、糸魚川市でも安心して子育てがしていける居場所となるといったことが、今回の施設整備によりまして、強くアピールできるものであると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

補足をさせていただきます。

国でも今、喫緊の課題、重要課題として、こども家庭庁の設立、こども基本法の施行、それからこども大綱の策定というふうな部分で、子供たちの若い世代のところの施策について、かなり全面的なバック体制を取りながら、これから進めようとしております。それはあくまでも、いまだかつて経験したことがない少子化への対応、子供、それから子育て世代の親への支援をどうしていくのかというような部分のところを国レベルで真剣に考えて、これから施策を進めていきます。

当糸魚川市にとっても、それは大変重要な内容でありまして、とにかく発達形成の土台づくりのゼロ歳から6歳というふうな部分については、物すごく大事な時期であることを十分に鑑みたときに、今回計画しているこの施設につきましては、やはり子育て支援、子供を大事にする、真ん中にするというふうな意味合いでは、大変大事な施設の一つになるのではないかとというふうな大きな期待を持っております。安心して子育てができ、安全に子供が育つ環境づくりの大きな拠点として、これはやっぱり構想し、実現に向けて進めていかなければいけないというふうに基本的には考えています。やはり安心できる居場所が、今まであまりなかったわけです。他市にはあったんだけど、屋内遊戯場みたいなものは、糸魚川になかったわけです。これをぜひ造っていただいて、子供たちも保護者も気軽にいつでもどこでも行かれて、年間を通して利用できるような、安らぐことができる安心できる居場所、それから相談できる場でもある。さらに親同士の仲間づくり、子供たち同士の友達づくり、ネットワークづくりができる大事な場面や場所になると私は期待しています。

そんな意味合いで、これから構想して進めていきます。話合いの下で進めていきますけれども、その意味で、未来の糸魚川市の子供たちが、どんな環境の中で子育てができ、安心して成長していくのか、その土台づくりの一つの大きなセントラル的な、中央的な施設になるというふうに私は位置づけて考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

糸魚川市の抱える問題と背景、そしてこういった手法で、こうやりますというのがすごくよく分かったんですけど、一言で、どうしたい、糸魚川市はどうしたい、どうなりたいというのを、やっぱりそのメッセージ性が少し弱いのかなというふうに感じました。私は何度も説明していただいているので分かるんですけども、やはり瞬間的に説明を聞く市民の皆さんで、なかなか難しい言葉が並んでたりすると、どうだったかなってというような、そんな感じになるので、一瞬のインパクトといえますか、糸魚川市は子育てでどうしたい、どうなりたいというところをしっかりとお伝えいただければいいのかなというふうに思いました。ありがとうございました。

続きまして、施設の設置により、市内でもニーズが上がっている一時預かりの機能をぜひ高めていただきたいと考えますが、いかがでしょうか。市内の一時預かりの機能を有する園の状況もお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

一時保育につきましては、保育所に入所していない児童を対象にしまして、1日単位で週に3日を限度として利用できる制度でございまして、市内には、7施設、公立・私立でございます。

そういった中でお話を少し伺っておりますと、出生数の減少とともに利用者数は減少もしているといった状況であります。そういった中で対応する、先ほど申しあげました保育士の確保が難しいといった状況がありまして、お申し込みいただいても、お断りする場合があります。ご希望いただいた方、全てのニーズに対応できている状況ではないといったことを伺っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

市内の中で一時保育、365日24時間やられるところがあると思うんですが、そちらの状況をちょっとお聞かせいただきたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

先ほど私、7か所と申しあげましたが、そちらにつきましては、今議員おっしゃいます365日ですか、やっていると含まれておりません。そういったところでも定期的には懇談を重ねる中で、保育士不足といった部分も少しお聞きしておりますが、改めてそういった施設の方々から、一時保育の実情といったものも伺ってみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

続けて、再質問をさせていただきます。

施設の設置により、子育て支援における多様な事業者の参入促進と能力活用が期待されますが、DBO方式の運営や指定管理者による運営によって、それらはクリアされるのか。それら運営方式ですが、市直営ではできない一番の強みとは何か、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

一番の強みということですが、DBO方式との民間の活力を利用した運営の強みといたしましては、民間ならではのノウハウによる時代といいますか、ニーズに沿った提案など、利便性の高い施設となることが期待できるといったことが特徴でもございます。

また、やはり直営、民間問わず、利用される方々の立場を大切にするとともに、やはりまた行ってみたいくなる施設づくり、そういった運営というのが大切になってくると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

今ご答弁いただきまして、民間のノウハウという部分、また行ってみたいという、そういった創意工夫、民間ならではの工夫があるんだろうなというのは想像できるんですけども、先ほどの塩尻の「えんてらす」のお話なんですけど、やっぱり直営でもしっかりやってくれるところはやってる。創意工夫があって、やっぱり民間にも負けてないノウハウやそういったものがあると思うんですけども。ちょっと語弊のないようにお伺いしますが、やはり民間のノウハウのほうが優れているという言い方、糸魚川市はその自信がないというふうにも受け止められたんですけども、その辺いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

決して民間、公立ともに、どちらが、優劣といったものをなかなかつけづらい部分もあるかと思えます。そういった中でやはり長い年月でこういったものも続けなければいけない中で、継続性といった部分の中でのやはり楽しみといいますか、そういった刺激といった部分も必要となってきております。そういった部分につきましては、やはり直営といいますか、公営ではなかなか得られない部分といった部分が民営のよさといった部分で考えているところでもございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

長い年月という意味では、民営化にすることの理解はできたんですけども、やっぱり糸魚川市の熱というか、そういった部分が伝播しない限り、業者もいい業者が現れないんだろうなというふうに感じますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

続きまして、令和2年10月に策定された糸魚川市駅北まちづくり戦略の中に、復興の向こう側を見据えたまちづくりの一環として、にぎわいの拠点施設の方向性が示されていますが、駅北子育て支援複合施設の狙いは、キターレのようにイベント等につくられるようなにぎわいと違い、日常的・継続的につくり出される人の流動、それがにぎわいであると理解しておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおりでございます。キターレも一過性が続かっつとすることで、そこで経常性という、定常性ということになるんですが、今回はプレイルームとか図書施設という、利用される施設を造ることで、年間を通じたそこに人を集めていただくという、人を集めるという役割を果たすものだということが、復興計画の拠点づくりにおける位置づけのことでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

基本計画修正案の中では、日に30人ほどの利用で年間1万人の利用を見越しており、子育て支援と遊び場の運営も日進月歩していかなければならないと考えますが、来場者の統計では測れない運営事業者の人事考課など、例えばDBO方式とか指定管理者制度でやった場合、運営事業者の人事考課などの基準はどうしていくのか。丸投げと言われぬような運営の質の向上は、どのように管理していくのか伺いたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

そういった人事考課といいますか、そういった実際に業務に当たられる方の質といいますか、資質等につきましては、やはりそういった部分を適宜確認をする場面というのが必要だというふう

考えております。そういった部分につきましては、仕様書と申しますか、そういった部分の中に盛り込むといったことも一つでしょうし、またそういったものを利用される方々が、こういったような気持ちで運営と申しますか、利用しているとかといった声を聴くといったことも大切になってくるかと思っておりますので、利用者の声も必要に応じてお聴きする中で、そういった運営者側の質の維持、向上のほうを目指してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

1番の（1）最後の質問を市長にお願いしたいと思います。

駅北に子育て支援複合施設ができたことで、糸魚川市の子育て支援に対する熱量が未来の糸魚川市の子供・子育て世代に伝わり、Uターンや里帰りの動機にも及ぶことを祈念しております。

ひとみかがやく日本一の子供をはぐくむには、複合施設を設置する地域、関係各位の理解が不可欠と考えます。交付金ありきで建設を進めていると思われない理解、浸透を進めていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

当然やはり設置地域の皆様方のご理解が、絶対必要であるわけでございますし、当然、市民全体に愛される施設というのは当然であります。やはり設置場所の周辺の皆様方からも、やはりその辺はしっかりと理解していただいて、そしてまた、いろんな面でご支援いただき、活用していくような施設にしていくためには、やはりそういった情報交換や、またいろんなやはり関係プレーというのにも必要になるかと思っておりますので、ぜひそういった方向で取り組んでまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

ぜひとも関係プレー、よろしくお願ひしたいと思います。

（2）番、子育て支援利用促進検討事業について再質問させていただきます。

まず、この検討事業は、今現在の子育て世代にすぐにでも利用していただけるような仮設の遊戯施設を設置するために行っている検討事業なのか、それとも、新設される予定の子育て支援施設に併設される遊戯施設の規模を検討するための事業なのか伺いたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今年度、予算措置をさせていただきました子育て支援利用促進検討事業、こちらにつきましては、現在、駅北で計画をしております（仮称）駅北子育て支援複合施設、そういったものの屋内遊戯施設の規模等を測ったりする、アンケート等も実際に行っておりますが、そこに向けての、こちらのほうの開催でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

今ほどアンケート等も行っているとのことでしたが、この検討事業で必要とされるのは、子育て世代に今後設置されるであろう施設を繰り返し利用していただくための工夫や機能、その他の情報収集であると考えます。2回の事業実施で、その検証は既にできていると思いますが、どんな工夫や情報が集まってきていますでしょうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今年度に入りまして、今ほどの事業につきましては、6月の中旬に平日1回、休日1回ということで2回実施しました。そういった中でお話をお伺いする中では、実際にそういった場所、スペース、空間があれば、こういった遊びをしたいですとかといった部分もアンケートでお聞きをしておりますし、また時間帯等についても、こういったところを望まれますかといった声もお聞きすること、また先ほど申し上げました広さといった部分も確認する中で、こういった大きさが望まれますかといったこともお聞きしているところでございます。

またさらに、加えてほしい機能という中では、例えば小さいお子さんですので、授乳の場所であるとか、オムツ替えといったような部分の希望であるとかもアンケートの中でお聞きしておりました、そういった部分も考慮する中で、今回の駅北複合施設のほうの整備のほうに活かしてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

施設規模について再質問をさせていただきたいと思いますが、イベントのように日を限定して、遊び場などの提供をすれば、動員でそれなりの人が集まると考えますが、その集まった人数の最大値を指標として、遊戯施設の規模を決めてしまうのは、早計な判断であると私考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

やはりイベント的なものでありますと、そこに例えば集客にも力が入ったりしまして、やはり人数が多めに出ているといったことも実際の部分もあるかと思っております。そういった中で今回、平日の開催であるとか、休日ということを織り交ぜて行っております。決して最大値が全てということとはございませんし、逆に最少値、また平均値的なものがどういったものか、どんな形で取るかということも課題ではございますが、決して多かったときだけを参考にするのではなく、全体を通して規模感であるとかといったものにつきましては、設定してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

そういった意味では、大きく造って、今後、汎用が利くような考え方で大きなスペースを取るというのも一つの考え方かと思いますが、本当に何回も私申し上げているのが、本当に平日の日中、真っ暗な誰もいない子育て支援施設とならないように、適正な規模感で造っていただければと、そのように思います。

現実的に子育て支援施設を利用する子育て世代は、そこを拠点に、例えばキターレやジオパルなどを利用し、町なかを巡回してくれる可能性、その2回の検討事業でそういったのは感じられましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

私、先日6月10日の土曜日の日に糸魚川地区公民館のほうに、午後の1時過ぎにお邪魔させていただきました。その際、駐車場を実際に自分の車で行ったわけなんですけど、止められないような状態で、少し離れたところに止めざるを得なかったということで、当時、公民館のほうではほかの事業もやっていたことから、かなりの人数がいらっやいました。そういった方々が、その後ちょっとどこのほうへ、終わった後、行ったという動向まではつかめておりませんが、そちらの方々が、近くの商店街であるとか、今ほどお話ありましたキターレ、またジオパルですか、そういったところへの働きかけの仕掛けといった可能性といったものも、期待できるものであるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

その二次的な動向まで調査しろってことじゃないんですけども、立ち寄っていただけるような、そういったまちづくりを目指しているはずなので、そういった促しも今後必要なのかなというふう  
に思います。

恒久的な施設の運営には、子育て世代や地域の方々の理解と協力が必要になると考えます。「ま  
ちなか大家族」の実現に向けて、子育て世代と関係のない地域の方々には、どのように施設設置の  
理解を深めていくのか。子育て支援が前面に出ている施設だけに、地域の方が入りにくい施設にな  
らないか心配ですが、子育て世代以外の多世代の満足度はどのように向上させていくのか、糸魚川  
市の考えをお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回こちらの施設整備に当たりましては、子育て支援機能を中心とした施設としながらも、やは  
り地域の方、それ以外の方々にもやっぱり愛される施設であってほしいというふうに思っておりま  
す。

そういった中で、やはり行きやすい、誰もが行きやすいといったような雰囲気づくりも必要でし  
ょうし、そういった中で、先ほど少しお話をしましたが、地域の方々の関わりといったものも大切  
になってきます。地域の方々が、こういった施設の、例えば応援隊といいますか協力体制を取って  
いただいたり、また日常から利用していただいたりということで、様々な場面等が想定されますの  
で、そういった部分につきましては、駅北のそちらを利用されるだけではなくて、子育てに関わっ  
てるんだ、社会全体で守ってるんだといった、そういった雰囲気づくりが大切であると考えており  
ます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

2番の（2）番の最後に、また市長にお伺いしたいと思います。

駅北に子育て支援施設を設置することで、果たしてにぎわいに資するのか。にぎわいの定義は、  
人それぞれ違うと考えますが、私は施設の設置で、少しでも日常的に人が流動してくれば成功で  
あると考えております。イベントのにぎわいだけに頼らない、近隣の方々が毎日でも集ってもらえ  
るよう施設運営を心がけていただきたい、このように思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今議員ご指摘のように、今、町なかでイベントをすると、多くの人がお集まりいただいて、にぎ

わいを見せております。それをやはり日常的に開催することによって、人が集まってくれる一つのこの可能性をつくったわけでございますので、それをやはり当然施設の管理なり、施設利用者は、それをうまく活用して、生かしていくことはさることながら、そういった環境をやはり周辺の皆様方や商店街の皆様方が、やはりそれをどのようにマッチングしていくかというところも必要になってくるのではないかなと思っております。

ただそれは、一つの組織、団体だとか、一つの事業者だけではなくて、そういう全体でそういった雰囲気づくりというのは必要になってくるわけでありますので、その辺を市といたしましても、その中に加わって、どのように対応していくかということがやはり大事になってくるんだらうと思いますので、もう一度、やはり皆さんと連携をするという大切な一つの見方を考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

それでは、（3）番、最後の再質問に入りたいと思います。

多世代が集う施設設置を目指し、基本計画を策定したと考えるが、図書機能と学習スペース等は計画どおり進められるのか。地域の方々がかける期待は、子育て支援施設以外のこのスペースにもあると考えるが、建設費を縮減するのであれば、どのような計画変更をしていくのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

今回お示しした基本計画の中で、やはり総事業費ですとか、維持管理費、運営費ですか、そちらのほうはかなり議論になっているというふうに思っています。この経費のままでいけるかどうかというのは、また今後、総務文教常任委員会のほうで十分議論をさせていただきたいというふうに思っていますが、仮に、そういった費用がやっぱりなかなか難しい、あるいは施設規模としてどうかというようなご意見があれば、基本的にはサイズダウン、ダウンサイジングですかね、小さくするということも考えられますけども、今のところ私どものほうから、この機能を削るといったことの提案というのは、直接的には考えておりません。皆さん、例えば議会の中、それから市民の皆さんの意見の中で、まだこうしたほうが良いというのがあれば、現基本計画をたたき台として、しっかり議論を踏まえて、皆さんが納得した上での施設整備につなげていきたいというふうに考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

果たしてダウンサイジングが、結局地域の皆様にとって理解いただけるのかというところも踏ま

えて、慎重に検討していただければというふうに思います。

一部の地域の方々は、今後よいものを造るために協力したいとおっしゃってくださっています。現在は、パブリックコメントで公表された総工費や運営費の数字が独り歩きし、中身の議論をほとんどしていないのではと考えます。市が進めようとしている計画が、現状の基本計画修正案までに至った経緯と施設設置の方向性を再確認する必要があると考えます。

パブリックコメントの実施をしてから、地域等の接触はあったのでしょうか。計画に賛同していただかなければならないのは、時の子育て世代ももちろんですが、設置場所となる周辺地域の皆さんであると考えます。地域の方々は、市役所の動きを待っていると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

議員今おっしゃっていただいた、よいものを造るために協力をしたいという声、非常にありがたいです。また私どもの懇談会でも企画のときから関わりたいというふうに言っていただいた、ありがたいことを言っていただいたので、そこについては、ぜひ実現していきたいのですが、今まで、ここまで修正案にまで至った経緯としては、やはり時間をかなり費やしてきています。丁寧とゆっくりの、ちょっと微妙な違いなんですけど、今回は、市役所で最大限の考えを出す。それに対して意見を頂いて、それをもう一回ちゃんと返すということを3巡でやってきて、ここまでブラッシュアップしてきたもんだと。途中のときに収益性の可能性とか、そこに時間を、市役所としてはじっくりやってきたつもりでございました。パブリックコメントを頂いて、総務文教常任委員会でいろいろご意見を頂いた後に、まだ先ほどの田原議員の質問もありましたけど、地元に対しては、その先の動きというのはできておりません。この先になりますけど、嶋田課長のほうの答弁にもございましたけど、冒頭そういう協力をしたい、運営段階、運営者の選定から含めても関わっていききたいという声をぜひかなえて、できればその先の施設ができた後の、それこそイベントの企画に資するようなスペースの確保とか、実際にできた後の企画とかにも関わっていただけるような、その動機づけをすることで地元の方に満足感というんですか、関わって、おらも一緒に造ったんだよというような満足感を高めるものだと思いますので、そういう地元の声というのは、丁寧に聴き取っていききたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

ぜひとも今後、よいものを造るために協力したい、こういった声を、頂いてる声を阻害することのないように、丁寧な対応をお願いしたいと思います。

（3）番の最後の質問、また市長に答弁お願いしたいんですが。

議会対応も大切な仕事であると思いますが、関わる人の声を吸い上げる仕事も大切な仕事である

と考えます。それらが実践され、よいものが造られるのであれば、議会の協力も得られると思います。15億円の建設費に年間の維持費が5,000万円と数字が独り歩きしているようにも感じますが、要は、まだまだ糸魚川市にとって必要な施設と感じられていないことが原因であると感じます。糸魚川市の子育てに対する情熱を市民にお伝えし、設置されたら50年間は、その地で活躍するであろうその施設を、地域の方々と共に創り上げていただきたい、このように思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり糸魚川はやはり他の地域と同等の都市である。そしてまた、子育てにいたしましても、しっかりとした施設を持ちながら対応して、そして、そこで子供を育てていくという姿勢は示していきたいと思うわけでございますので、それについては、この大火という本当に不幸な出来事ではありましたが、その中でこの今、設置をしていきたいということでご提案をさせていただいておるわけであります。そういった考え方をしっかり市民の皆様方や、また周辺の皆様方にもお示しをしながら取り組んでまいりたいと思っております。非常に少子化になって、より子育てが大切になってきていると捉えておるわけでございますので、皆様方の答弁にもありましたように、糸魚川で育てていきたいというような気持ちになれるようなまちにしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

期待しておりますし、自分もお力添えができるよう頑張っていきたいと思っております。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩いたします。

再開を55分といたします。

〈午後1時49分 休憩〉

〈午後1時55分 開議〉